

名古屋の街と博覧会

— 都市発展の軌跡 —



池田 誠一

【10】万国博の誘致…難しかった大規模博

1 愛知に万博を

オリンピック落選の影響が最も大きかったのは、中心となっていた愛知県だったかもしれません。岐阜県や名古屋市が自力の博覧会計画をスタートさせる中、愛知県は万博誘致に走っていました。たしかに、オリンピックに匹敵するイベントは万博です。

万博には2つの区分があり、当時は、一般博と特別博でした。一般博は大阪万博、特別博は沖縄海洋博や科学技術博にあたり、前者の方が規模が大きくなります。愛知県が狙ったのも当然、前者の一般博でした(図1)。

ところが愛知の万博誘致の源を訪ねると、2つの流れがありました。一つは愛知県ですが、いま一つ、国の通産省にも、再び万博を

通称	開催年	開催地	BIE区分
大阪万博	1970	大阪府	一般博
沖縄海洋博	1975~6	沖縄県	特別博
筑波科学博	1985	茨城県	特別博
花の万博	1990	大阪府	特別博(園芸博)
愛知万博	2005	愛知県	登録博(特別博)

図1 日本で開かれたBIEの万国博(国際博)。
ただし短期間のものは省く

という根があったようです(実は、こちらが先だったという指摘があります(文献②))

まず動き出したのは地元でした。昭和63年、県・名古屋市・経済界がまとまって万国博の誘致を決めました。国も、すぐ世界に向けて21世紀最初の国際博開催を表明したのです。今回は、名古屋市を巻き込んだ愛知万博の誘致とその実現に至る経過を追い、博覧会がどう実現していったかを見てみたいと思います。

2 万博の難しさ

(1) 国際博のルール

万博(国際博)の開催には、博覧会国際事務局(BIE)という国際機関の承認が必要です。

日本が誘致を表明した63年の総会で、国際博のルール変更(条約事項)が決まっていました。21世紀からは従来の、一般博、特別博という区分を改め、「登録博」(5年単位。従来の一般博)と「認定博」とするというものです。そして平成5年の総会で、2004(平成16)年末までの国際博開催を凍結する

という決議(モトリアム決議)をしました。

しかし、ルール変更条約の批准が遅れていたため、2005年の特別博が可能だったのです。その隙間についてカナダ(カルガリー)が申請する動きができました。実現すると日本は2010年しか行えないこととなります。そのため日本も2005年開催に、古いルールの特別博で争わざるを得ませんでした。

その後、オーストラリア(クイーンズランド州)も参加することになりましたが、9年3月の臨時総会で、先のモトリアム決議が解除され、オーストラリアは2002年の小規模博(認定博)に回り、大規模博は日本とカナダとが対決することになりました。

激しい外交戦がありました。6月の総会で、日本は52対27で勝利し、日本開催が決定しました。ただ申請が特別博だったことについては、その後、BIEで「実質的な登録博」という位置づけにされたのです。

(2) 会場問題

愛知の万博計画で、大きな問題になったのは会場の計画でした。愛知県は誘致が決まると候補地の選定に入り、平成2年、瀬戸市東南部(海上地区)を決定しました。標高100~250m程度の丘陵地350ha(全体で650ha)でした。

その後、博覧会の誘致は進みましたが、会場計画は、なかなか具体的になりませんでした。平成8年のBIE総会での説明では、全体を540haとし、跡地計画である新住宅市街地整備事業(新住事業)と自動車専用道の名古屋瀬戸道路等による大規模な土木事業が前提になっていました(図2)。ところが、その計画に地元の自然保護団体が反対を始めたのです。「海上の森」とネーミングされ、それを守ろうという運動となって次第に広がっていき

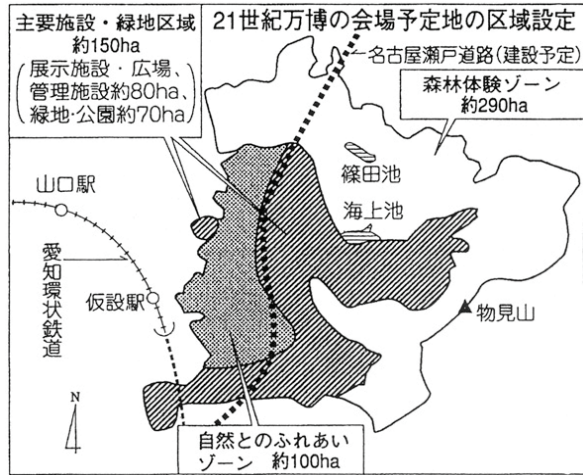


図2 平成8年。BIEに説明した会場計画の概要
(朝日新聞：平成7年12月5日)

ました。

10年、実施主体である博覧会協会ができ、会場計画にもプロジェクトチームが作られ専門家の検討が始まりました。しかし、アクセスのない山奥の、凹凸の多い土地に2,500万人を入れる計画は難航しました(図3-①)。一方、自然保護の運動は広がりを見せ、大規模土木工事が前提の会場計画は危機を迎えたのです。候補地のお隣には、広い県の青少年公園があり、そこならば会場計画は容易に見えました。ごく一部では、青少年公園へと「舵を切る」タイミングが模索されてすらいたのです。

そこに11年5月、絶滅危惧種オオタカの営業が確認されました。世の中の評価とは逆に、計画者にとってはまさに「救世主」だったようです。そして会場予定地が、そろりそろりと青少年公園へと移り始めました。

(3) BIE登録へ

オオタカの営業をうけて、11年6月、博覧会協会は県や国に協議し、周辺地への展開の指示を受けました。そこで、県はシナリオ通り青少年公園の活用を提案しました。

そして9月には、2会場に分離した会場案

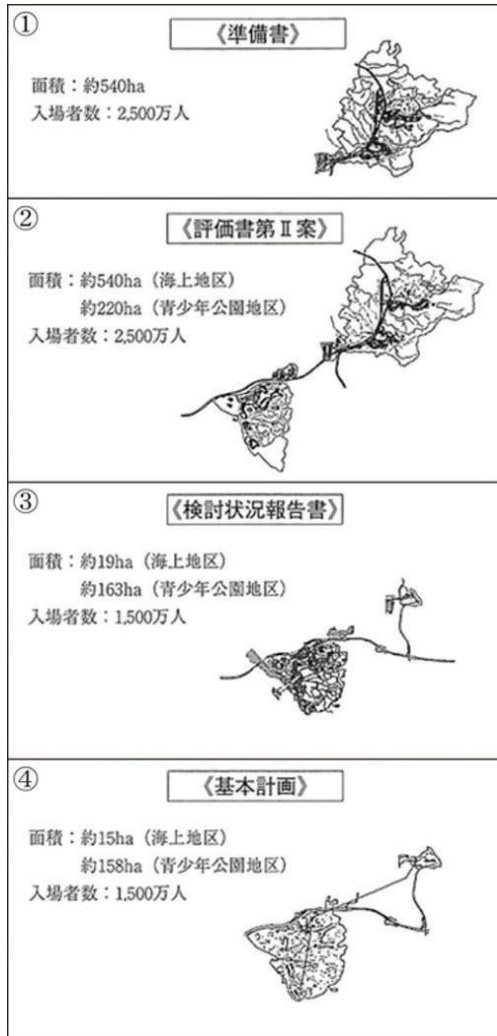


図3 基本計画までの会場計画の変遷(文献①)

が出来ました(図3-②)。ところが11月にBIEの議長、事務局長が来日し、分離案の問題点や跡地利用計画への懸念を表明しました。これによって、愛知万博の問題は根本から見直されることになったのです。

まだ混乱は続きます。翌12年1月。通産大臣は見直しを指示し、5月に予定されていたBIE登録(最終案確定)が見送られました。そして問題になった自然保護団体と協議し、同5月、地元、自然保護団体、学識者からなる「愛知万博検討会議」が設置されました。こ

の会議では、毎回公開で、シビアな議論が行われました。しかし7月には、海上地区利用の大幅カットで基本合意されたのです。

その結果、博覧会の規模は、入場者も2,500万人から1,500万人に修正されました。そしてそれに基づく計画案が作られ、9月には閣議決定(図3-③)。すぐBIEに申請され、12年の12月の総会で、なんとか「BIE登録」にこぎつけることが出来ました。会場計画はその後、環境アセスメントで修正され、13年12月、ようやく基本計画がまとまったのです(図3-④)。

3 絶行 海上の森

… 難しかった海上地区計画 …

それでは今回は、当初会場候補地とされた瀬戸市東南部の海上地区を訪ねてみましょう。

まず、博覧会で海上地区西端に瀬戸会場として残された地域を訪ねます。

〈八草から〉

愛知環状鉄道(愛環)と万博に合わせて建設された東部丘陵線(リニモ)の交差する八草駅(当時、リニモは万博八草駅)を降ります。今は静かになった駅を北に出ます。前方は、国道と自動車専用道路の交差する大きな交差点です。その交差点を北に渡り、国道(155号)の坂を上ります。緩やかに峠を越えて1*ほ



博覧会の瀬戸会場入口。今は住宅地へと工事中



瀬戸会場跡。正面には市民パビリオンがあった

ど進むと、右側に上って行く道路があります。その道を進み、道なりに左に曲がると、ピーク付近で右にいく道があります。その先は「万博メモリアルパーク」とあります。丸い大きな焼き物モニュメントを見ながらカーブした歩道を上ると展望台です。西側を見ると万博の瀬戸会場の入口が住宅地へと変身中です。東側は、その瀬戸会場ですが、もう元の所有者に返却され、市民パビリオン等も跡形もなくなりました。

東側の道路に出て左に坂を下ります。少し



愛環鉄道から会場駅構想の場所を望む。
正面の山の上が会場入口だった



愛知県館はあいち海上の森センターとして残された



赤池。この一帯が海上会場の南部分の中心だった

行くと平坦な田園地帯です。この付近には、海上地区へのメインアクセスになる愛環鉄道の分岐線と駅が構想されていました（図2参照）。計画では、その向こうに見える山まで、長いエスカレーター等で上るのです。

橋を渡り右に曲がってゆるやかに上ると、橋があり、その向こうに「あいち海上の森センター」の建物が見えます。ここまでが瀬戸会場で、建物は愛知県館の跡です。

通り過ぎて細い山道に入ります。うっそうとした森になりますが、この谷を2本の高架道路が、山を削り、橋脚を立てて通る計画だったのです。山道を進み、2か所ほど分岐点を越えると赤池に出ます。静かな溜め池ですが、この付近一帯を中心に万博会場の南側部分が計画されていました。

〈海上の里へ〉

引き返して次の分岐点を右に、山道を上ると、すぐ四辻に出ます。前に古窯の跡がある



海上池。立ち枯れの木が上高地の大正池を思わせる

所です。そこから右に、切通と尾根道を繰り返す緩やかな道を700m程進むと林道に飛び出します。左に少し行くと交差する道があり、右に行くと海上地区のピークである物見山に行けます。ここではその左にある道を進み、左、右とカーブして北に進みます。少し行くと前が開けて両側は農地になります。この一帯が海上の里といわれる所です。この農地のある所が会場の北側部分の中心になっていました。

上高地の大正池に似て有名になった海上池は、そこから北へ林道をたどり、右にカーブする付近で左に坂を下った所です。森林が残ったまま溜池のダムが造られたため池の中に木が残り、海上大正池とも呼ばれます。

海上の里の四辻に戻り、右に下ります。少し田圃が続いた後、再び林間の道になります。



海上の里。緩やかな勾配の地に海上会場の北側の部分が構想された



海上会場の拠点だった四ツ沢付近。この左の先でオオタカの営巣が…

沢に沿って下ると少し開けた空間に出ます。四ツ沢と呼ばれる所です。この付近は上空に東西に分かれて高架道路が出来、会場全体の中心的な場所になる計画でした。しかし、この少し北でオオタカの営巣が確認されたのです。

きれいに舗装された道を下ると、川沿いになり、左にカーブして新設道路を越えると屋戸橋です。橋を渡って西に行きます。愛環鉄道の山口駅はその1kmほど先の左側です。

4 名古屋・笹島会場？

愛知万博の会場候補地の難点は、造成しない限り、広い平坦な土地がなかったことでしょう。会場計画で揺れた平成11~12年。意外な土地が注目を集めることになりました。それは、名古屋駅の南の笹島地区です。15分近い、平坦で、すぐにも利用できそうな土地があったのです。

もちろん万国博を開けるような土地ではありません。が、高速道路を使えば計画中の会場と直結できます。開会式や都市型のイベントなどに利用する会場として使えないか。海上も青少年も十分に使えないかもしれない。そういう危機感を持った会場の議論の最中では、分散する会場の一つに名古屋笹島会場があってもおかしくない状況にありました。

その後、大半が青少年公園に移り、そこで博覧会が可能になり、笹島構想は消えました。そして博覧会の際は、会場へのバスアクセスの拠点として、娯楽施設を併設しつつ、主会場を支える拠点に利用されたのです。

〈主な参考文献〉

- ①『2005年日本国際博覧会公式記録』
(2006、(株)2005年日本国際博覧会協会)
- ②甲斐一政「万博の全容は見えるか」
(1998/9/7、中日新聞)